

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 2 年 1 2 月 5 日
Date of Application:

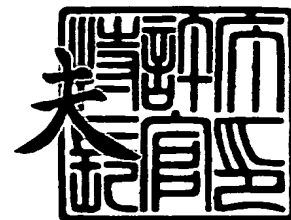
出 願 番 号 特 願 2 0 0 2 - 3 5 3 9 5 3
Application Number:
[ST. 10/C] : [J P 2 0 0 2 - 3 5 3 9 5 3]

出 願 人 松 下 電 器 産 業 株 式 会 社
Applicant(s):

2 0 0 3 年 9 月 1 6 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

今 井 康



出証番号 出証特 2 0 0 3 - 3 0 7 5 8 8 3

【書類名】 特許願

【整理番号】 2903240086

【提出日】 平成14年12月 5日

【あて先】 特許庁長官殿

【国際特許分類】 H04M 1/66

【発明者】

 【住所又は居所】 神奈川県横浜市港北区綱島東四丁目 3 番 1 号 松下通信
工業株式会社内

 【氏名】 栗原 健

【特許出願人】

 【識別番号】 000005821

 【氏名又は名称】 松下電器産業株式会社

【代理人】

 【識別番号】 100105647

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 小栗 昌平

 【電話番号】 03-5561-3990

【選任した代理人】

 【識別番号】 100105474

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 本多 弘徳

 【電話番号】 03-5561-3990

【選任した代理人】

 【識別番号】 100108589

 【弁理士】

 【氏名又は名称】 市川 利光

 【電話番号】 03-5561-3990

【選任した代理人】**【識別番号】** 100115107**【弁理士】****【氏名又は名称】** 高松 猛**【電話番号】** 03-5561-3990**【選任した代理人】****【識別番号】** 100090343**【弁理士】****【氏名又は名称】** 栗宇 百合子**【電話番号】** 03-5561-3990**【手数料の表示】****【予納台帳番号】** 092740**【納付金額】** 21,000円**【提出物件の目録】****【物件名】** 明細書 1**【物件名】** 図面 1**【物件名】** 要約書 1**【包括委任状番号】** 0002926**【プルーフの要否】** 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 電話装置、着信動作方法および着信動作プログラム

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 着信時に着信履歴を記憶する電話装置であって

着信時に受信した発信番号を含む着信履歴情報を登録するための着信履歴フォルダを複数有する着信履歴記憶手段と、

着信時の呼出時間を計測する呼出時間計測手段と、

前記呼出時間計測手段によって計測された呼出時間を設定時間と比較して、当該呼出時間と前記設定時間との大小関係に応じて、着信履歴情報を前記着信履歴記憶手段の異なる着信履歴フォルダに分けて登録する着信履歴登録手段と、

着信時に受信した発信番号が前記着信履歴記憶手段のいずれかの着信履歴フォルダに登録されていれば、どの着信履歴フォルダに登録されているかによって、当該着信に対して異なる動作を行う着信対応手段と、
を備えたことを特徴とする電話装置。

【請求項 2】 前記着信履歴記憶手段は、第 1 の着信履歴フォルダを有し、

前記着信履歴登録手段は、前記呼出時間計測手段によって計測された呼出時間が前記設定時間以下の着信履歴情報を前記第 1 の着信履歴フォルダに登録し、

前記着信対応手段は、前記第 1 の着信履歴フォルダに登録されている発信番号からの着信に対しては着信拒否を行うことを特徴とする請求項 1 記載の電話装置。

【請求項 3】 発信番号毎に着信回数を計数する着信回数計数手段を備え、

前記着信履歴登録手段は、前記呼出時間計測手段によって計測された呼出時間および着信時に受信した発信番号からの着信回数に応じて、着信履歴情報を前記着信履歴記憶手段の異なる着信履歴フォルダに分けて登録することを特徴とする請求項 1 記載の電話装置。

【請求項 4】 前記着信履歴記憶手段は、第 1 の着信履歴フォルダおよび第 2 の着信履歴フォルダを有し、

前記着信履歴登録手段は、前記呼出時間計測手段によって計測された呼出時間が第 1 の設定時間以下かつ着信時に受信した発信番号からの着信回数が所定回数

以上の着信履歴情報を前記第1の着信履歴フォルダに登録し、前記呼出時間が前記第1の設定時間よりも大きく前記第2の設定時間以下かつ前記着信回数が所定回数以上の着信履歴情報を前記第2の着信履歴フォルダに登録し、

前記着信対応手段は、前記第1の着信履歴フォルダに登録されている発信番号からの着信に対しては着信拒否を行い、前記第2の着信履歴フォルダに登録されている発信番号からの着信に対しては着信無視を行うことを特徴とする請求項3記載の電話装置。

【請求項5】 前記第2の設定時間は前記第1の設定時間よりも長いことを特徴とする請求項4記載の電話装置。

【請求項6】 着信時に受信した発信番号を含む着信履歴情報を登録するための着信履歴フォルダを複数有する着信履歴記憶手段を備えた電話装置の着信動作方法であって、

着信時の呼出時間を計測する呼出時間計測ステップと、

前記呼出時間計測ステップで計測された呼出時間を設定時間と比較して、当該呼出時間と前記設定時間との大小関係に応じて、着信履歴情報を前記着信履歴記憶手段の異なる着信履歴フォルダに分けて登録する着信履歴登録ステップと、

着信時に受信した発信番号が前記着信履歴記憶手段のいずれかの着信履歴フォルダに登録されていれば、どの着信履歴フォルダに登録されているかによって、当該着信に対して異なる動作を行う着信対応ステップと、
を有することを特徴とする着信動作方法。

【請求項7】 前記着信履歴記憶手段は、第1の着信履歴フォルダを有し、
前記着信履歴登録ステップは、前記呼出時間計測ステップで計測された呼出時間が前記設定時間以下の着信履歴情報を前記第1の着信履歴フォルダに登録し、

前記着信対応ステップは、前記第1の着信履歴フォルダに登録されている発信番号からの着信に対しては着信拒否を行うことを特徴とする請求項6記載の着信動作方法。

【請求項8】 発信番号毎に着信回数を計数する着信回数計数ステップを有し、

前記着信履歴登録ステップは、前記呼出時間計測ステップで計測された呼出時

間および着信時に受信した発信番号からの着信回数に応じて、着信履歴情報を前記着信履歴記憶手段の異なる着信履歴フォルダに分けて登録することを特徴とする請求項 6 記載の着信動作方法。

【請求項 9】 前記着信履歴記憶手段は、第 1 の着信履歴フォルダおよび第 2 の着信履歴フォルダを有し、

前記着信履歴登録ステップは、前記呼出時間計測ステップで計測された呼出時間が第 1 の設定時間以下かつ着信時に受信した発信番号からの着信回数が所定回数以上の着信履歴情報を前記第 1 の着信履歴フォルダに登録し、前記呼出時間が前記第 1 の設定時間よりも大きく前記第 2 の設定時間以下かつ前記着信回数が所定回数以上の着信履歴情報を前記第 2 の着信履歴フォルダに登録し、

前記着信対応ステップは、前記第 1 の着信履歴フォルダに登録されている発信番号からの着信に対しては着信拒否を行い、前記第 2 の着信履歴フォルダに登録されている発信番号からの着信に対しては着信無視を行うことを特徴とする請求項 8 記載の着信動作方法。

【請求項 10】 前記第 2 の設定時間は前記第 1 の設定時間よりも長いことを特徴とする請求項 9 記載の着信動作方法。

【請求項 11】 請求項 6、7、8、9 または 10 に記載の着信動作方法をコンピュータに実行させるための着信動作プログラム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、着信時に発信番号が通知される電話装置、着信動作方法および着信動作プログラムに関する。

【0002】

【従来の技術】

従来より、携帯電話には着信履歴記憶機能が搭載されている。この着信履歴記憶機能では、着信すると必ず履歴が残るようになっているため、呼出時間にかかわらず着信履歴が記録される。但し、呼出時間を計測し、この計測値も着信履歴のデータとして記録する呼出時間記憶機能を備えた携帯電話も存在する。

【0003】

昨今、不特定多数の携帯電話に対し、コンピュータで電話をかける、いわゆる「ワン切り」と呼ばれる短時間の着信を行い、着信履歴を残す迷惑電話が社会問題となっている。この場合、一度、着信履歴に残った電話番号に対して着信拒否登録を手動で行うことにより、同電話番号からの2度目以降の着信を拒否することができる（例えば、特許文献1、2、3参照）。

【0004】**【特許文献1】**

特開平10-42036号公報

【特許文献2】

特開平11-252246号公報

【特許文献3】

特開2000-59502号公報

【0005】**【発明が解決しようとする課題】**

しかしながら、上記説明した従来の携帯電話では、着信拒否登録を毎回手動で行わなければならないため面倒であるという問題点があった。

【0006】

本発明は、上記従来の問題点に鑑みてなされたものであって、ユーザによる操作を行うことなく迷惑電話に対応する煩わしさを解消することのできる電話装置、着信動作方法および着信動作プログラムを提供することを目的としている。

【0007】**【課題を解決するための手段】**

上記目的を達成するために、本発明に係る電話装置は、着信時に着信履歴を記憶する電話装置であって着信時に受信した発信番号を含む着信履歴情報を登録するための着信履歴フォルダを複数有する着信履歴記憶手段と、着信時の呼出時間を計測する呼出時間計測手段と、前記呼出時間計測手段によって計測された呼出時間を設定時間と比較して、当該呼出時間と前記設定時間との大小関係に応じて、着信履歴情報を前記着信履歴記憶手段の異なる着信履歴フォルダに分けて登録

する着信履歴登録手段と、着信時に受信した発信番号が前記着信履歴記憶手段のいずれかの着信履歴フォルダに登録されていれば、どの着信履歴フォルダに登録されているかによって、当該着信に対して異なる動作を行う着信対応手段と、を備えている。したがって、ユーザによる操作を行うことなく迷惑電話に対応する煩わしさを解消することができる。

【0008】

また、本発明に係る電話装置は、前記着信履歴記憶手段は、第1の着信履歴フォルダを有し、前記着信履歴登録手段は、前記呼出時間計測手段によって計測された呼出時間が前記設定時間以下の着信履歴情報を前記第1の着信履歴フォルダに登録し、前記着信対応手段は、前記第1の着信履歴フォルダに登録されている発信番号からの着信に対しては着信拒否を行う。したがって、迷惑電話に対して着信拒否を行うことができる。

【0009】

また、本発明に係る電話装置は、発信番号毎に着信回数を計数する着信回数計数手段を備え、前記着信履歴登録手段は、前記呼出時間計測手段によって計測された呼出時間および着信時に受信した発信番号からの着信回数に応じて、着信履歴情報を前記着信履歴記憶手段の異なる着信履歴フォルダに分けて登録する。このように、呼出時間と着信回数を組み合わせて着信履歴情報を振り分けることで、多様な対応をとることができる。さらに、呼出時間の長さで振り分けることで、通常使用時に呼出時間を参照しなくても、着信履歴から迷惑電話の番号に誤発信することを回避できる。

【0010】

また、本発明に係る電話装置は、前記着信履歴記憶手段は、第1の着信履歴フォルダおよび第2の着信履歴フォルダを有し、前記着信履歴登録手段は、前記呼出時間計測手段によって計測された呼出時間が第1の設定時間以下かつ着信時に受信した発信番号からの着信回数が所定回数以上の着信履歴情報を前記第1の着信履歴フォルダに登録し、前記呼出時間が前記第1の設定時間よりも大きく前記第2の設定時間以下かつ前記着信回数が所定回数以上の着信履歴情報を前記第2の着信履歴フォルダに登録し、前記着信対応手段は、前記第1の着信履歴フォル

ダに登録されている発信番号からの着信に対しては着信拒否を行い、前記第2の着信履歴フォルダに登録されている発信番号からの着信に対しては着信無視を行う。したがって、迷惑電話に対して、着信拒否以外に着信無視といった動作を行うことができる。

【0011】

また、本発明に係る電話装置は、前記第2の設定時間は前記第1の設定時間よりも長いことが望ましい。

【0012】

また、本発明に係る着信動作方法は、着信時に受信した発信番号を含む着信履歴情報を登録するための着信履歴フォルダを複数有する着信履歴記憶手段を備えた電話装置の着信動作方法であって、着信時の呼出時間を計測する呼出時間計測ステップと、前記呼出時間計測ステップで計測された呼出時間を設定時間と比較して、当該呼出時間と前記設定時間との大小関係に応じて、着信履歴情報を前記着信履歴記憶手段の異なる着信履歴フォルダに分けて登録する着信履歴登録ステップと、着信時に受信した発信番号が前記着信履歴記憶手段のいずれかの着信履歴フォルダに登録されていれば、どの着信履歴フォルダに登録されているかによって、当該着信に対して異なる動作を行う着信対応ステップと、を有する。

【0013】

また、本発明に係る着信動作方法は、前記着信履歴記憶手段は、第1の着信履歴フォルダを有し、前記着信履歴登録ステップは、前記呼出時間計測ステップで計測された呼出時間が前記設定時間以下の着信履歴情報を前記第1の着信履歴フォルダに登録し、前記着信対応ステップは、前記第1の着信履歴フォルダに登録されている発信番号からの着信に対しては着信拒否を行う。

【0014】

また、本発明に係る着信動作方法は、発信番号毎に着信回数を計数する着信回数計数ステップを有し、前記着信履歴登録ステップは、前記呼出時間計測ステップで計測された呼出時間および着信時に受信した発信番号からの着信回数に応じて、着信履歴情報を前記着信履歴記憶手段の異なる着信履歴フォルダに分けて登録する。

【 0 0 1 5 】

また、本発明に係る着信動作方法は、前記着信履歴記憶手段は、第 1 の着信履歴フォルダおよび第 2 の着信履歴フォルダを有し、前記着信履歴登録ステップは、前記呼出時間計測ステップで計測された呼出時間が第 1 の設定時間以下かつ着信時に受信した発信番号からの着信回数が所定回数以上の着信履歴情報を前記第 1 の着信履歴フォルダに登録し、前記呼出時間が前記第 1 の設定時間よりも大きく前記第 2 の設定時間以下かつ前記着信回数が所定回数以上の着信履歴情報を前記第 2 の着信履歴フォルダに登録し、前記着信対応ステップは、前記第 1 の着信履歴フォルダに登録されている発信番号からの着信に対しては着信拒否を行い、前記第 2 の着信履歴フォルダに登録されている発信番号からの着信に対しては着信無視を行う。

【 0 0 1 6 】

また、本発明に係る着信動作方法は、前記第 2 の設定時間は前記第 1 の設定時間よりも長いことが望ましい。

【 0 0 1 7 】

さらに、本発明に係る着信動作プログラムは、請求項 6、7、8、9 または 10 に記載の着信動作方法をコンピュータに実行させるためのものである。

【 0 0 1 8 】**【発明の実施の形態】**

本発明に係る電話装置、着信動作方法および着信動作プログラムの実施の形態について、〔第 1 の実施形態〕、〔第 2 の実施形態〕の順に図面を参照して詳細に説明する。なお、以下の説明では、本発明に係る電話装置を着信履歴記憶機能付き携帯電話（以下、単に「携帯電話」という。）に適用した場合について説明する。なお、以下の説明では、本発明に係る電話装置および着信動作方法について詳述するが、本発明に係る着信動作プログラムについては、着信動作方法を実行させるためのプログラムであることから、その説明は以下の着信動作方法の説明に含まれる。

【 0 0 1 9 】**〔第 1 の実施形態〕**

図1は、本発明に係る第1の実施形態の携帯電話の構成を示すブロック図である。第1の実施形態の携帯電話は、図1に示すように、無線信号を送受信する無線部1と、特許請求の範囲の着信履歴記憶手段に該当するメモリ2と、発呼や各種操作を行う操作部3と、各種表示を行う表示部4と、呼出音や音声等を出力するスピーカ5と、着信履歴登録手段および着信対応手段に該当する制御部6とを備えて構成されている。

【0020】

メモリ2は、着信履歴や登録電話番号、動作設定等を記憶するものであり、特許請求の範囲の第1の着信履歴フォルダに該当する着信履歴フォルダ21（拒否用）と、着信履歴フォルダ22（通常用）と、番号登録メモリ23とを有している。着信履歴フォルダ21（拒否用）は、呼出時間が設定時間内の着信履歴を保存するためのフォルダである。また、着信履歴フォルダ22（通常用）は、呼出時間が設定時間を越える着信履歴を保存するためのフォルダである。また、番号登録メモリ23は、登録した発信番号や着信拒否動作指定等を記憶するものである。

【0021】

また、制御部6は、各構成要素を制御するものであり、特許請求の範囲の呼出時間計測手段に該当する呼出時間計測部63と、番号登録部61と、呼出時間判定部62とを有している。呼出時間計測部63は、着信すると呼出時間を計測するものである。また、番号登録部61は、各着信の発信番号を番号登録メモリ23に登録するものである。また、呼出時間判定部62は、着信履歴フォルダ21、22に着信履歴を振り分けて保存するために着信履歴の呼出時間が設定時間内か越えるかを判定するものである。なお、番号登録部61は、ユーザによる操作に従って番号登録メモリ23に登録しても良い。また、予め決められた設定に従って、着信履歴フォルダ21に保存されている発信番号を着信拒否する電話番号として自動的に番号登録メモリ23に登録しても良い。

【0022】

図2は、メモリ2に保存された着信履歴を示す説明図である。図2（A）は、呼出時間判定部62の判定結果に従って振り分けられる前の着信履歴である。な

お、着信履歴には、発信番号や日時、呼出時間が登録される。また、図 2 (B) は、呼出時間判定部 62 による判定の結果、着信履歴フォルダ 21 に登録された着信履歴である。一方、図 2 (C) は、呼出時間判定部 62 による判定の結果、着信履歴フォルダ 22 に登録された着信履歴である。図 2 (B) に示された着信履歴は呼出時間が設定時間内の着信履歴であり、図 2 (C) に示された着信履歴は呼出時間が設定時間を超える着信履歴である。

【0023】

次に、本実施形態の携帯電話の動作（着信動作方法）について、図 3 を参照して説明する。図 3 は、第 1 の実施形態の携帯電話が行う着信動作処理手順を示すフローチャートである。なお、当該手順は制御部 6 によって実行される。

【0024】

まず、本実施形態の携帯電話が着信すると、制御部 6 は着信信号を検出して、この着信信号の呼出時間を計測する（ステップ S1）。次に、着信時に発信番号が通知されているか否かを判別すし（ステップ S2）、発信番号が通知されている場合はステップ S4 に進み、発信番号が通知されていない場合はステップ S3 に進んで通常動作を行い、本処理を終了する。

【0025】

ステップ S4 では、発信番号が着信履歴フォルダ 21 内に登録されている番号と一致するか否かを判別する。当該ステップ S4 において登録があれば、ステップ S5 に進んで着信拒否動作を行った後、本処理を終了する。一方、登録がなければステップ S6 に進んで、番号登録メモリ 23 に発信番号が既に登録されているか否かを確認する。当該ステップ S6 において既に登録があれば、ステップ S7 に進んで、その番号に対応する各種動作を行った後、本処理を終了する。一方、登録されていなければステップ S8 に進んで、呼出時間が設定時間以下であるか否かを判別する。

【0026】

当該ステップ S8 において呼出時間が設定時間を越える場合は、着信履歴の登録先を着信履歴フォルダ 22 に振り分けて登録し（ステップ S9）、通常動作を行った（ステップ S10）後、本処理を終了する。一方、呼出時間が設定時間以

下の場合は、着信履歴の登録先を着信履歴フォルダ 2 1 に振り分けて登録し（ステップ S 1 1）、通常動作を行った（ステップ S 1 2）後、本処理を終了する。なお、ステップ S 1 1 で発信番号の着信履歴を着信履歴フォルダ 2 1 に振り分けて登録した後、着信履歴フォルダ 2 1 内にある発信番号を自動的に番号登録メモリ 2 3 に登録すると同時に、その着信拒否動作の登録を行うようにしても良い。

【0 0 2 7】

以上説明したように、第 1 の実施形態の携帯電話では、ユーザが面倒な操作を行うことなく、いわゆる「ワン切り」等の迷惑電話に対応する煩わしさを解消することができる。例えば、設定時間が 2 秒以内の呼出時間の着信履歴については、2 度目以降の着信に対して自動的に着信拒否することができる。また、着信拒否する電話番号の登録を自動的にすることができる。

【0 0 2 8】

[第 2 の実施形態]

第 1 の実施形態の携帯電話では、着信履歴フォルダ 2 1 に振り分けて登録された発信番号に対し着信拒否動作を行ったが、第 2 の実施形態の携帯電話では、迷惑電話に対して様々な対応をとることができるよう、着信拒否動作だけでなく他の着信対応動作も行う。

【0 0 2 9】

図 4 は、本発明に係る第 2 の実施形態の携帯電話の構成を示すブロック図である。同図において、図 1（第 1 の実施形態）と重複する部分には同一の符号を付して説明を省略する。図 4 に示すように、第 2 の実施形態の携帯電話が第 1 の実施形態の携帯電話と異なる点は、呼出時間判定部 6 2 が、着信時の呼出時間と比較される設定時間として第 1 の設定時間 6 2 a および第 2 の設定時間 6 2 b の 2 つの設定時間が設定され、発信番号毎に着信回数を計数する着信回数計数部 6 4 をさらに有することである。なお、第 2 の設定時間 6 2 b は第 1 の設定時間 6 2 a よりも長い時間に設定されている。

【0 0 3 0】

また、メモリ 2 が、次回着信があった時にその着信が無視される発信番号の着信履歴が登録される着信履歴フォルダ 2 4（無視用）が追加されていることであ

る。なお、着信回数計数部 64 は特許請求の範囲の着信回数計数手段に該当し、着信履歴フォルダ 24（無視用）は第 2 の着信履歴フォルダに該当する。

【0031】

次に、本実施形態の携帯電話の動作（着信動作方法）について、図 5 および図 6 を参照して説明する。図 5 および図 6 は、第 2 の実施形態の携帯電話が行う着信動作処理手順を示すフローチャートである。なお、当該手順は制御部 6 によって実行される。

【0032】

まず、本実施形態の携帯電話が着信すると、制御部 6 は着信信号を検出して、この着信信号の呼出時間を計測する（ステップ S11）。次に、着信時に発信番号が通知されているか否かを判別し（ステップ S12）、発信番号が通知されている場合はステップ S14 に進み、発信番号が通知されていない場合はステップ S13 に進んで通常動作を行い、本処理を終了する。

【0033】

ステップ S14 では、発信番号が着信履歴フォルダ 21 内に登録されている番号と一致するか否かを判別する。当該ステップ S14 において登録があれば、ステップ S15 に進んで着信拒否動作を行った後、本処理を終了する。一方、登録がなければステップ S16 に進んで、発信番号が着信履歴フォルダ 24 内に登録されている番号と一致するか否かを判別する。当該ステップ S16 において登録があれば、ステップ S17 に進んで着信無視動作を行った後、本処理を終了する。着信無視動作とは、例えば、着信があってもその着信を表示部 4 に表示しなかったり、スピーカ 5 から呼出音を鳴らさないといった動作である。

【0034】

一方、登録がなければステップ S18 に進んで、番号登録メモリ 23 に発信番号が既に登録されているか否かを確認する。当該ステップ S18 において既に登録があれば、ステップ S19 に進んで、その番号に対応する各種動作を行った後、本処理を終了する。一方、登録されていなければステップ S20 に進んで、呼出時間が第 1 の設定時間 62a 以下であるか否かを判別する。

【0035】

当該ステップ S 2 0 において呼出時間が第 1 の設定時間 6 2 a 以下である場合は、その発信番号の着信回数を算出し、当該着信回数が所定回数以上であるか否かを判別する（ステップ S 2 1）。なお、呼出時間が第 1 の設定時間 6 2 a 以下である発信番号の着信回数は、着信履歴フォルダ 2 2 に登録されているその発信番号の着信履歴を計数することにより算出される。当該ステップ S 2 1 において着信回数が所定回数に達していない場合は、その発信番号の着信履歴を着信履歴フォルダ 2 2 に振り分けて登録する（ステップ S 2 6）。一方、ステップ S 2 1 において着信回数が所定回数以上である場合は、その発信番号の着信履歴を着信履歴フォルダ 2 1 に振り分けて登録した（ステップ S 2 2）後、通常動作を行い（ステップ S 2 7）、本処理を終了する。

【 0 0 3 6 】

一方、ステップ S 2 0 において呼出時間が第 1 の設定時間 6 2 a を越える場合は、呼出時間が第 2 の設定時間 6 2 b 以下であるか否かを判別する（ステップ S 2 3）。当該ステップ S 2 3 において呼出時間が第 2 の設定時間 6 2 b 以下である場合は、その発信番号の着信回数を算出し、当該着信回数が所定回数以上であるか否かを判別する（ステップ S 2 4）。なお、呼出時間が第 2 の設定時間 6 2 b 以下である発信番号の着信回数は、着信履歴フォルダ 2 2 に登録されているその発信番号の着信履歴を計数することにより算出される。

【 0 0 3 7 】

当該ステップ S 2 4 において着信回数が所定回数に達していない場合は、その発信番号の着信履歴を着信履歴フォルダ 2 2 に振り分けて登録する（ステップ S 2 6）。一方、ステップ S 2 4 において着信回数が所定回数以上である場合は、その発信番号の着信履歴を着信履歴フォルダ 2 4 に振り分けて登録した（ステップ S 2 5）後、通常動作を行い（ステップ S 2 7）、本処理を終了する。

【 0 0 3 8 】

また、ステップ S 2 3 において呼出時間が第 2 の設定時間を越える場合は、その発信番号の着信履歴を着信履歴フォルダ 2 2 に振り分けて登録した（ステップ S 2 6）後、通常動作を行い（ステップ S 2 7）、本処理を終了する。なお、ステップ S 2 2、S 2 5 で発信番号の着信履歴をそれぞれ着信履歴フォルダ 2 1、

2 4 に振り分けて登録した後、着信履歴フォルダ 2 2, 2 4 内にある発信番号を自動的に番号登録メモリ 2 3 に登録すると同時に、その着信拒否動作、着信無視動作の登録を行うようにしても良い。

【0 0 3 9】

以上説明したように、第 2 の実施形態の携帯電話では、迷惑電話に対して、着信拒否以外に着信無視といった動作を行うことができる。また、呼出時間と着信回数を組み合わせて振り分けることで、多様な対応をとることができる。さらに、呼出時間の長さで振り分けることで、通常使用時に呼出時間を参照しなくても、着信履歴から迷惑電話の番号に誤発信することを回避できる。

【0 0 4 0】

なお、第 2 の実施形態では、通常用の着信履歴フォルダ 2 2 の他に、着信拒否用の着信履歴フォルダ 2 1 および着信無視用の着信履歴フォルダ 2 4 の 2 つの着信履歴フォルダを設けたが、3 つ以上設けても良い。また、呼出時間が設定時間以下か否か、かつ着信回数が所定回数以上であるか否かによって各着信履歴フォルダへの振り分けを行っているが、呼出時間の判別結果だけで振り分けを行うようにしても良い。また、一旦、着信履歴フォルダ 2 4 に振り分けられた発信番号が所定の条件を満たす場合、例えば、その後の着信回数が所定回数を越える場合、その発信番号の着信履歴を、無視用の着信履歴フォルダ 2 4 から拒否用の着信履歴フォルダ 2 1 に転送しても良い。

【0 0 4 1】

さらに、上記第 1 および第 2 の実施形態では、本発明に係る電話装置を携帯電話に適用した場合について説明したが、固定電話に適用しても良い。

【0 0 4 2】

【発明の効果】

以上説明したように、本発明に係る電話装置、着信動作方法および着信動作プログラムによれば、ユーザによる操作を行うことなく迷惑電話に対応する煩わしさを解消することができる。

【図面の簡単な説明】

【図 1】

本発明に係る第1の実施形態の携帯電話の構成を示すブロック図

【図2】

メモリに保存された着信履歴を示す説明図

【図3】

第1の実施形態の携帯電話が行う着信動作処理手順を示すフローチャート

【図4】

本発明に係る第2の実施形態の携帯電話の構成を示すブロック図

【図5】

第2の実施形態の携帯電話が行う着信動作処理手順を示すフローチャート

【図6】

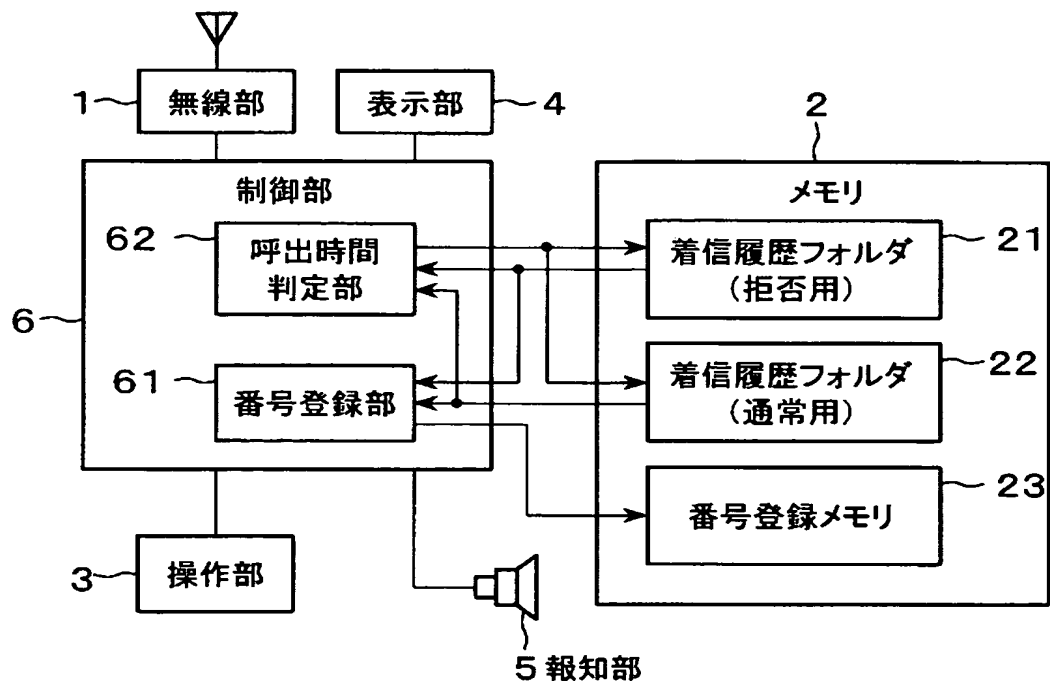
第2の実施形態の携帯電話が行う着信動作処理手順を示すフローチャート

【符号の説明】

- 1 無線部
- 2 メモリ
- 3 操作部
- 4 表示部
- 5 スピーカ
- 6 制御部
- 21, 22, 24 着信履歴フォルダ
- 23 番号登録メモリ
- 61 番号登録部
- 62 呼出時間判定部

【書類名】 図面

【図 1】



【図 2】

(A)

発信者番号	日時	呼出時間
03-0000-0001	1月1日 1:01	2秒
03-0000-0002	1月1日 1:02	15秒
03-0000-0003	1月1日 1:03	1秒
03-0000-0004	1月1日 1:04	8秒
.

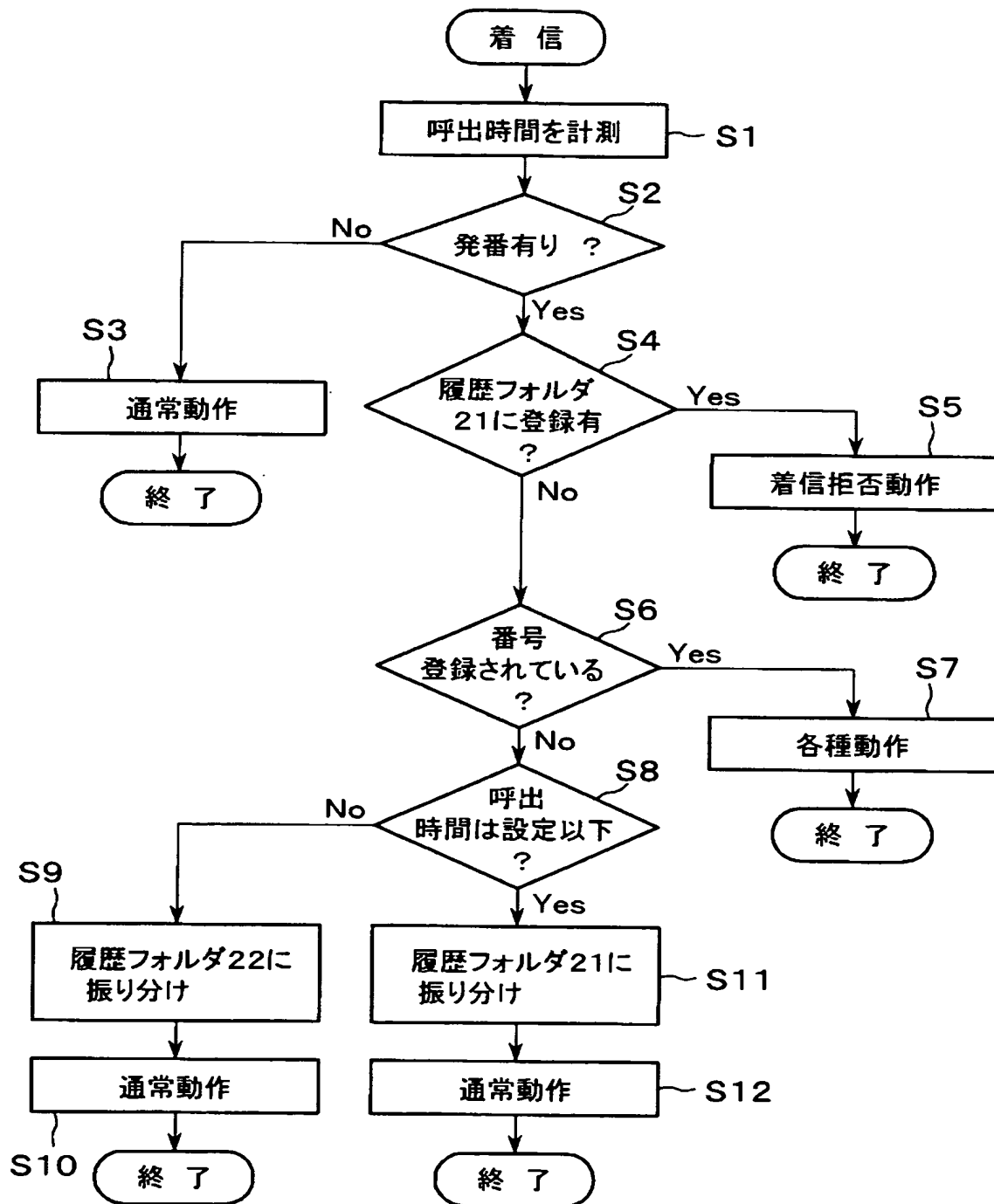
(B)

発信者番号	日時	呼出時間
03-0000-0001	1月1日 1:01	2秒
03-0000-0003	1月1日 1:03	1秒
.

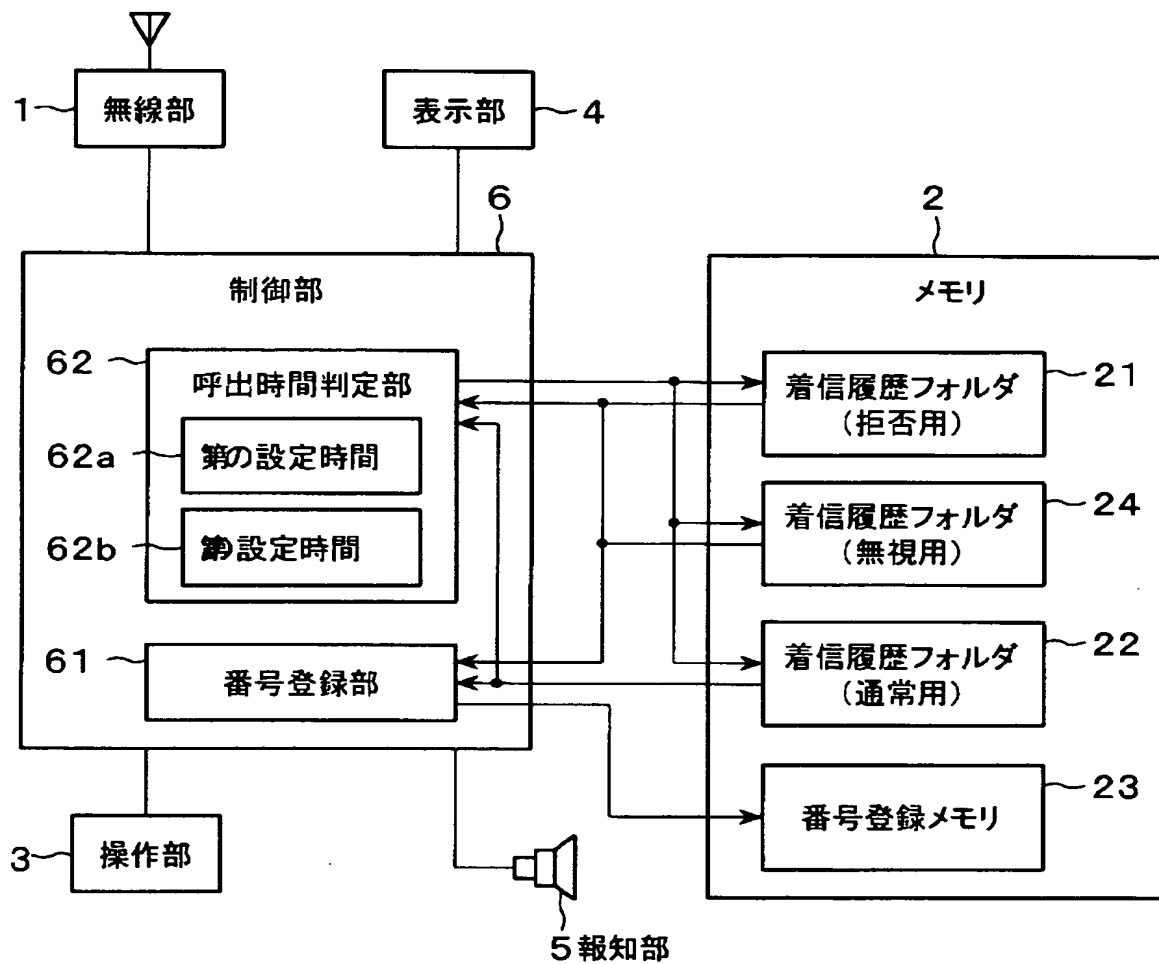
(C)

発信者番号	日時	呼出時間
03-0000-0002	1月1日 1:02	15秒
03-0000-0004	1月1日 1:04	8秒
.

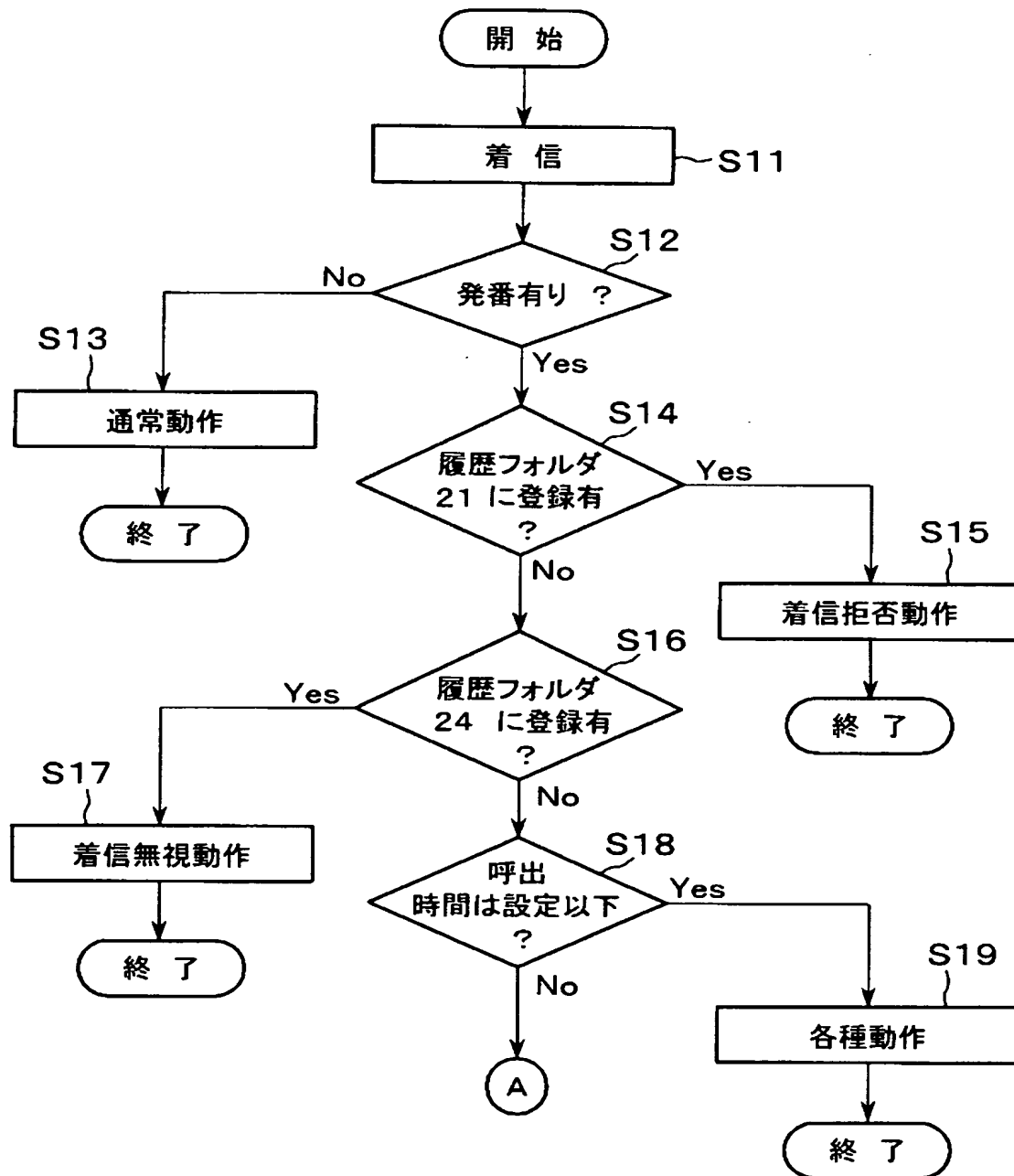
【図 3】



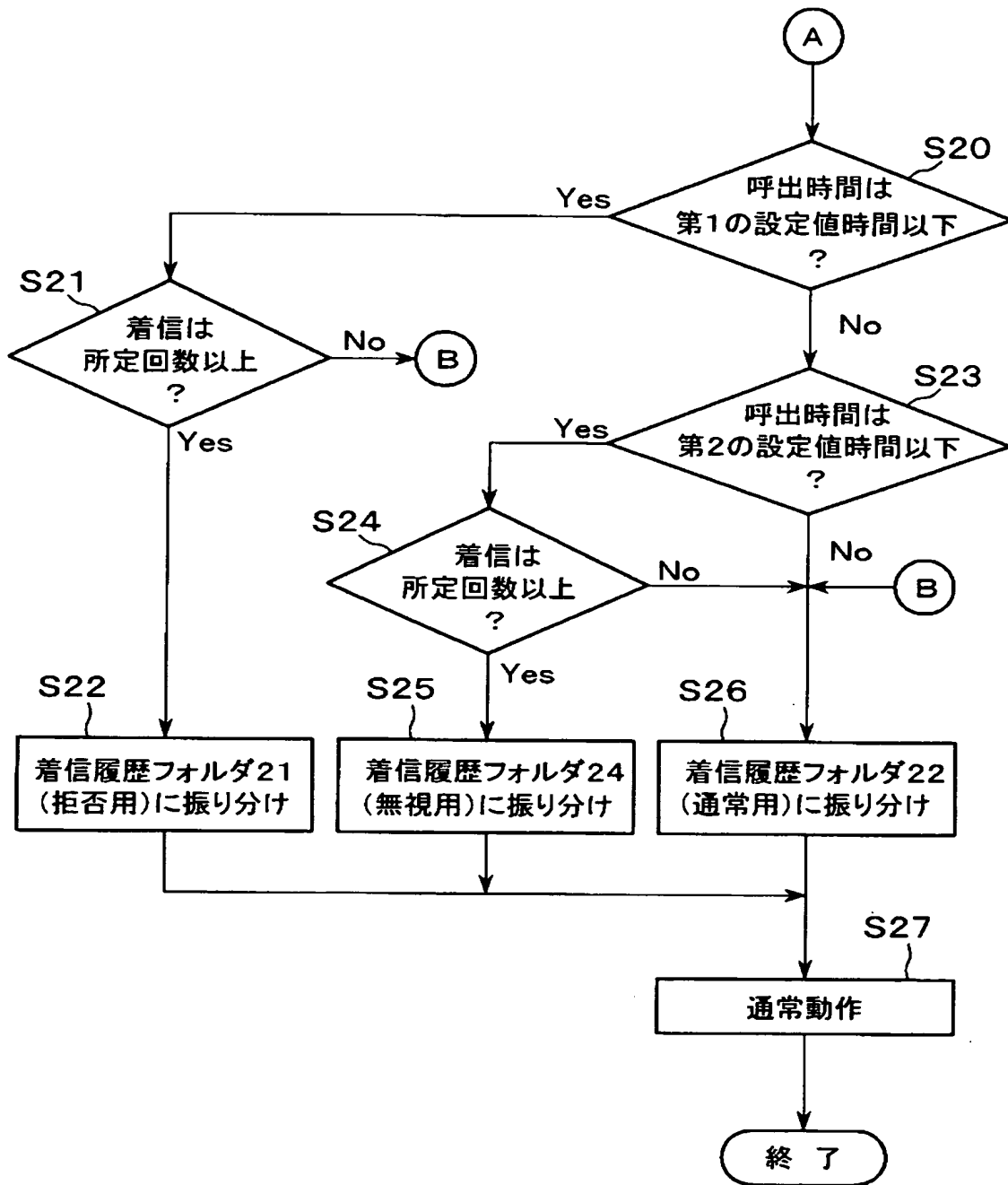
【図 4】



【図5】



【図 6】



【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 ユーザによる操作を行うことなく迷惑電話に対応する煩わしさを解消することのできる電話装置、着信動作方法および着信動作プログラムを提供する。

【解決手段】 制御部 6 は、着信履歴の呼出時間が設定時間を越えるか否かによって着信拒否用の着信履歴フォルダ 21 または通常用の着信履歴フォルダ 22 に振り分ける呼出時間判定部 62 を有する。着信時、まだ発信番号の登録が行われていない場合、呼出時間が設定時間以下であるか否かを判別する。呼出時間が設定時間を越える場合、通常用の着信履歴フォルダ 22 にその発信番号の着信履歴を振り分けて登録し、呼出時間が設定時間以下である場合、着信拒否用の着信履歴フォルダ 21 に振り分けて登録する。次回着信があった時、その発信番号が着信履歴フォルダ 21 内に存在する番号と一致する場合、着信拒否動作を行う。

【選択図】 図 1

特願 2 0 0 2 - 3 5 3 9 5 3

出 願 人 履 歷 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 5 8 2 1]

1 . 変更年月日

1 9 9 0 年 8 月 2 8 日

[変更理由]

新規登録

住 所

大阪府門真市大字門真 1 0 0 6 番地

氏 名

松下電器産業株式会社